新版（しんぱん）　指導要文集（しどうようもんしゅう）

第三章（だいさんしょう）　宿命転換（しゅくめいてんかん）

宿命転換（しゅくめいてんかん）

仏の滅後一千五百余年、陳鍼と申す人ありき。命は知命にありと申して、五十年に定まって候いしが、天台大師に値って十五年の命を延べて六十五までおわしき。その上、不軽菩薩は、「さらに寿命を増す」ととかれて、法華経を行じて定業をのべ給いき。

（130 可延定業書

宿命転換 1307ページ－17行）

法華経の持者は教主釈尊の御子なれば、いかでか梵天・帝釈・日月・衆星も昼夜朝暮に守らせ給わざるべきや。厄の年、災難を払わん秘法には、法華経に過ぎず。たのもしきかな、たのもしきかな。

（155 太田左衛門尉御返事

宿命転換 1375ページー1行）

当年(とうねん)の大厄(だいやく)をば、日蓮(にちれん)に任(まか)せ給(たま)え。釈迦(しゃか)・多宝(たほう)・十方分身(じっぽうふんじん)の諸仏(しょぶつ)の法華経(ほけきょう)の御約束(おんやくそく)の実(じつ)・不実(ふじつ)は、これにて量(はか)るべきなり。

（155 太田左衛門尉御返事(おおたさえもんのじょうごへんじ)
宿命転換(しゅくめいてんかん)
1375ページー7行）

三十三のやくは、転じて三十三のさいわいとならせ給うべし。「七難は即ち滅し、七福は即ち生ず」とは、これなり。年はわこうなり、福はかさなり候べし。

（198四条金吾殿女房御返事

宿命転換1543ページー14行）

三十三の厄はかえって三十三の福となるでありましょう。

「七難即滅・七福即生」というのはこのことです。年は若返り、福は重なることでしょう。

人の命は山海空市まぬかれがたきことと定めて候えど
も、また「定業もまた能く転ず」の経文もあり。
（205四条金吾殿御返事（智人弘法の事）
宿命転換1563ページー1行）

経王御前には、わざわいも転じて幸いとなるべし。

（225 経王殿御返事

宿命転換 1633ページー9行）

経王御前の、今の病気という不幸も、転じて幸福にかわていくことはまちがいありません。

灸治(きゅうじ)をしてやまい病癒をいやし、針治(しんじ)にて人(ひと)を治をなおすがごとし。当時(とうじ)はなげく歎とも、後(のち)は悦(よろこ)びなり。

（398 異体同心事(いたいどうしんじ)

宿命転換(しゅくめいてんかん) 2055ページ-11行）